

うけどしょうがっこうものがたり

# 請戸小学校物語

おおひらやま

大平山をこえて



# 請戸小学校物語

2011年3月11日金曜日

ふくしまけん なみえまち  
福島県 浪江町 にある

請戸小学校の1日のおはなしです。



絵 えのきだのりゆき

ぼくらの町 請戸は、海と山に かこまれた  
しぜんゆたかな 小さな町です。  
町の人たちはおたがいに あいさつをかわし、  
みんな 仲良く くらしています。



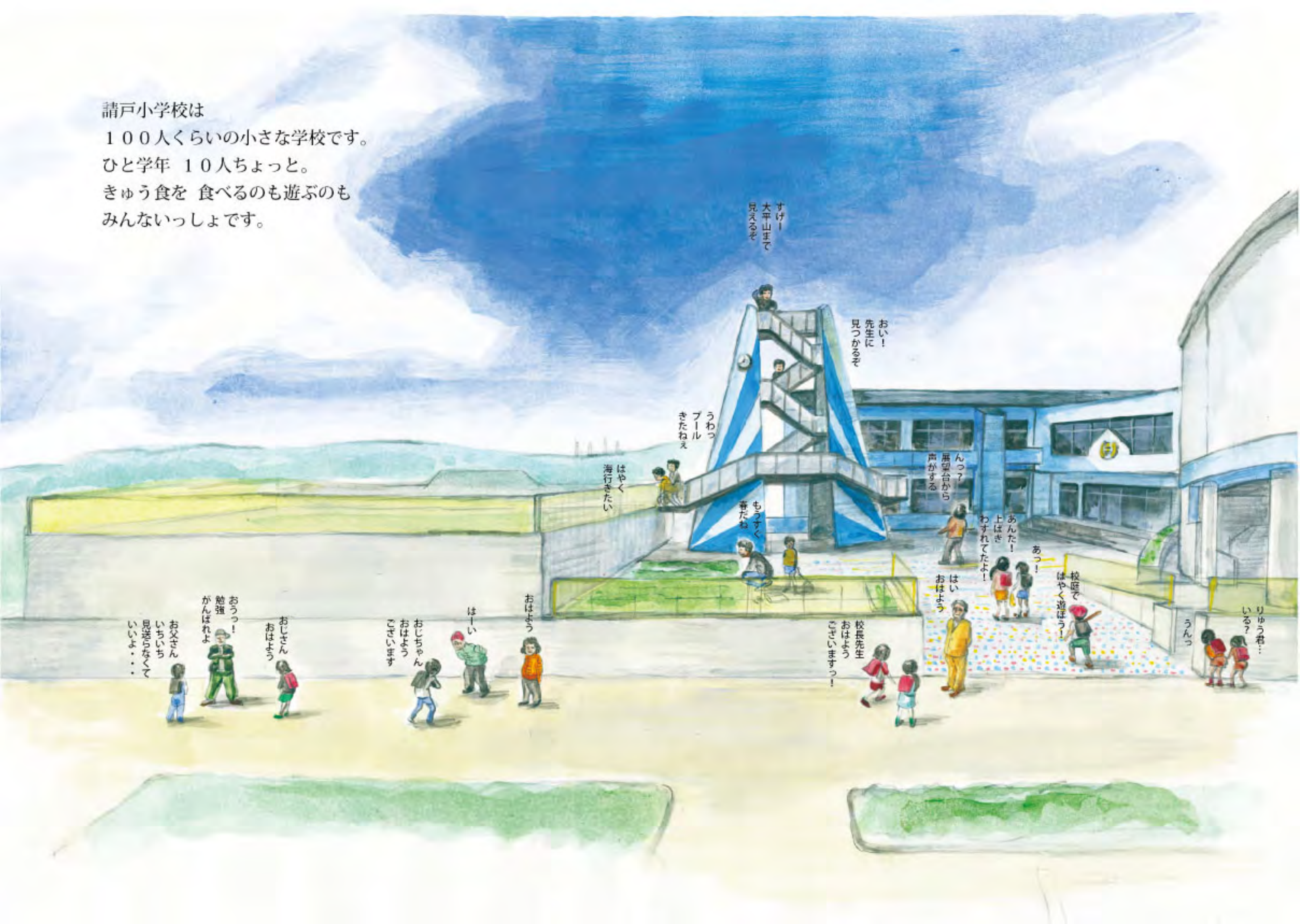
請戸小学校は

100人くらいの小さな学校です。

ひと学年 10人ちょっと。

きゅう食を 食べるのも遊ぶのも

みんないっしょです。



すげー  
大平山まで  
見えるぞ

おい！  
先生に  
見つかるぞ

うわっ  
プール  
きたねえ

はやく  
海行きたい

んっ？  
展望台から  
声がする

あんだ！  
上はき  
わすれてたよ！

あっ！

校庭で  
はやく遊ぼう！

りゅう君...  
いる？

うんっ

はい  
おはよう

校長先生  
おはよう  
ございますっ！

おはよう

はい

おじちゃん  
おはよう  
ございます

おじさん  
おはよう

おっ！  
勉強  
がんばれよ

お父さん  
いちいち  
思慮がなくて  
いーや...



そうだよ  
気をつけてな

先生  
今日は実験？

書が  
出てきたな  
書ふらなかな

半級文庫の本  
かりすぎた

ひろきくん  
つぎは理科？

うん  
みねちゃんは  
本読みに？

エレベーター  
であそぶな！

この下アなんだ？

おれたち  
使っちゃ  
いけないんだよな

式与授書証業修



ぎょう  
卒業式の  
れんしゅう?

6年生とも  
お別れが

そなたよ  
ほら  
書いてある

着かえ  
まにあった!

学校  
終わったら  
遊ぼうよ

大平山に  
ひみつ基地  
あるって  
本当?

野球チームの  
ランニング中に  
見つけたんだ  
あっ ひみつだった!

集まれ!  
体育を  
はしめるぞ

この前  
砂浜でな  
へんな生き物  
見た

何たそれ?  
見にいこうぜ

とどろい  
とどろい  
とどろい

おしいな

もう少しで 6年生と別れて、  
新しい1年生と出会います。

体育館では 卒業式の おうだんまくが  
りっぱに かかっています。

5年生は学校で1番の上級生になります。  
1年生は ちょっぴりお兄さんお姉さんになります。

みんな 期待と不安を持ちながら  
この1日を すごしていました。

5時間目のじゅぎょうが終わろうとしていた時です。  
学校がゴゴォと大きな音を たてて ゆれはじめました。

じしん  
「地震だっ」



みんな いっせいに  
机の下にもぐりました。

けれど、ゆれは あまりにも大きく  
ぼくらは 机ごとはげしく  
ゆさぶられました。

「はやく 校庭に 出なさい！」

先生の声で ぼくらは 校庭へかけ出しました。  
うわばきのままの子もいました。

校長先生は すぐさま、

「とにかく 高いところへ！」

「大平山へ！」

と ぼくらに向かって大声で言いました。





「地震の後には、津波がやってくる」と  
近所のおじいさんに教えてもらったことを  
思い出しました。

走ってひなんする ぼくらと先生は、  
浜街道へ さしかかりました。

浜街道は、津波から にげようとする  
人たちでいっぱい、車もじゅうたいしていましたが  
先生がなんとか車を止めてぼくらを わたらせました。

「先生っ うちの子はどこですか？」  
「今はにげるのが先です！」

子どもをむかえにきたお父さんやお母さんもいましたが、  
先生は 子どもたちをつれて避難を続けました。



なんども地面がゆれる中、ぼくらは走りました。  
先生をおいこしていく子もいれば、  
つかれて、歩いている子もいました。

先頭の先生と子どもたちは 大平山のふもとにつきました。  
しかし、山へのぼる道がなかなか見つかりませんでした。  
すぐにでも 高い所へ 避難しなければなりません。

ぼくらが こまっていた そんな時でした。

「先生！こっちだよ」

四年生のりゅうたです。

「この道から山に入れるよ！  
野球の練習で来たことあるんだ」

先生たちも入ったことのない道ですが、  
まよっている時間は ありません。  
こうして、りゅうたが言った道から  
大平山に入りました。



ひろきは車いすを使って みんなと  
いっしょに避難していました。

ここまで、ひろきにとってつらい道でしたが、  
弱音をはくことはありませんでした。

道はだんだんと だろ道になってきました。



「よくがんばった！  
ここからは先生と  
行こう」

先生は ひろきを  
せおいました。



## ゴゴゴゴゴオオ...

山にのぼっているさいちゅう、海の方から ぶきみな音が聞こえてきました。

先生たちは、子どもたちに声をかけ、なんとか不安をまぎらわせようとします。

そして、ついに大平山の ちょうじょうに つきました。子どもの数をかぞえると、全員無事でした。

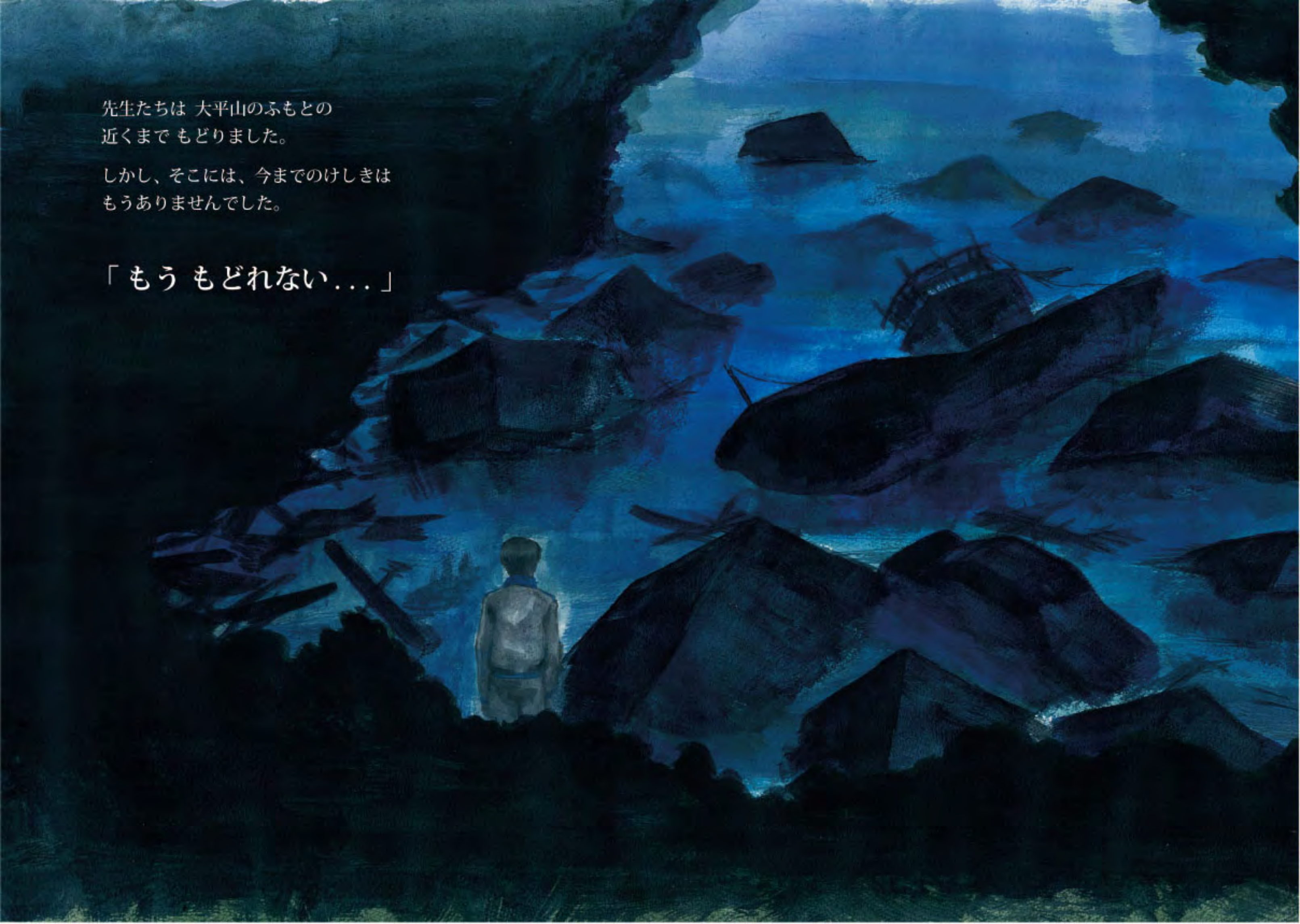
しばらくして、町や小学校のことが気になったので数人の先生が様子を見るために もどりました。




先生たちは 大平山のふもとの  
近くまでもどりました。

しかし、そこには、今までのけしきは  
もうありませんでした。

「もう もどれない...」





「先生、どうだった？」  
「早く帰ろうよ」

ぼくらがたずねても先生は  
だまったままで、それ以上は  
きくことができませんでした。

先生たちは請戸の町を子どもたちに  
見せないように決心していたのです。

大平山で聞いた、あのぶきみな音は  
町が津波に のまれていく音だったのです。

町の人が避難している役場に向かうことになり  
ぼくらは山の反対側へ おりました。  
そこには、地震でひびわれた道路がありました。

先生は助けを呼びに、先に役場へ走って行きました。  
それから どのくらい待ったでしょう。  
あたりはどんどん暗くなっていきます。

雪が ちらついてきました。  
みんな 寒さときょうふに たえていました。  
もう限界でした。



その時、目の前に大きなトラックが止まりました。

「荷台に乗れっ みんな乗せて行ってやる！」

ぼくらはとびあがって大喜びしました。





トラックが役場につき、  
ぼくらは町の体育館に入りました。

「無事でよかった」

こうして、請戸小学校のぼくらは  
全員避難できたのです。



長い長い3月11日が終わりました。

地震があれば 津波という さいがい 災害が起こること

大平山というにげる場所があること

請戸の子どもたちは、請戸の町についてよく知っていました。

だから、いざとなった時に

とっさのはんだんができたのかもしれない。

地震や その他の 災害は

いつ あなたのもとに ふりかかるのか わかりません。

あなたにとっての大平山はどこですか。





請戸小学校物語 大平山をこえて

2015年3月発行

発行 NPO法人 団塊のノーブレス・オブリージュ

監修 成清北斗

絵 榎田宣行

編集 請戸小学校物語制作委員会

榎田宣行、黒澤歩美  
内田靖司、橋本武司、皆川達夫、黒木英俊  
藤田能成、加藤俊彦、三井 悠、田中大一

助成 福島県企画調整部 文化スポーツ局

協力 福島県浪江町役場  
請戸小学校教職員の皆様  
再会の集い「元気だった会」の皆様  
武蔵野美術大学 齋藤 啓子  
団塊のワーキング・スタイル研究会  
Office Hello

印刷・製本 株式会社第一印刷  
〒960-8201 福島県福島市岡島字古屋館1番2

©2015 NPO法人 団塊のノーブレス・オブリージュ